

藏する草筆維摩圖が代表する筆法精神は光琳畫を一貫して居るのであつて、この意味に於て近時喧傳する某氏藏する所の太公望圖二曲屏風の如きはこれをその筆と鑑せらるゝに於て光琳の迷惑とする所でなくてはなるまい。

光琳風雷神圖屏風の色彩に就て略記すれば、風神は身色緑青、眼と齒とは雷神と共に金泥で、髪は金筋を加へた褐色、天衣は表群青裏朱、袋は胡粉地の周縁を金泥で括る。雷神は身色胡粉、天衣は表緑青裏朱、下袴は群青、太鼓は褐朱、腕釧には金泥を施す。なほこの屏風の裏には抱一の草花圖が著けられて居り、それは恐らく抱一が光琳を臨して彼の風雷神圖屏風を畫いたと同時に作と思はれ、聊か蛇足の感を禁じ得ないとしても、風神には風の穗すゝきと葛の花、雷神には雨の青萱と白百合の花を著けた所に意匠の見るべきものがないではない。(脇本)

書

評

鎌倉彫刻圖錄

昨春奈良帝室博物館に開かれた「運慶を中心とする鎌倉彫刻展覽會」は近年有意義なる催として注目され、當時本誌上(第十七號)にも其の展觀目錄を掲げて報じた所であつたが、此の程、其の陳列品の寫眞を蒐めた大冊の圖錄が刊行された。されば、鎌倉彫刻圖錄と云つても、鎌倉時代彫刻の集大成ではなく、例へば、運慶作が最も重要な一主題をなしてゐながら南大門の二王や北圓堂の彌勒を缺き、湛慶作と思はれてゐる雪蹊寺の兩脇侍はあつて中尊毘沙門天は收められぬ、と云ふ如き憾は感ぜられるが、其の選擇は本圖錄の責ではなく、展覽會の陳列品として、運搬の困難な巨像や、本尊の類が加へられなかつたこと

五、筆者不詳 歳旦風物圖

帖装 紙本着彩 豎 三二・八釐 横 二七・七釐

東京 春木壽美吉氏藏

(田中喜作「歳旦風物圖」参照)

六、千手觀音像

木造 像高 一・六七九米

長野縣 藤尾觀音堂藏

(丸尾彰三郎「信濃國藤尾觀音像」参照)

は當然で、此の立派な圖錄を繕きつゝ、立派であるだけに物足りなくは思つても、それは圖錄編纂の由來から當然のことと云はねばならぬ。此の蒐集が造像銘や胎内納入物などによつて、史料的に物を言ふものを其の眼目とされた苦心は容易に認められる所であつて、鎌倉時代に名を遺した佛師諸家の信すべき作例を種々纏めて見ることの出来る點で、此の圖錄の刊行は先の展觀の功を永く留むるものであり、從來缺けたる此の部分の埋むる研究上の好資料を提供されたものとして、博物館當事諸公の勞を多とするのである。圖版毎の解説に、銘文寫眞其他の資料を數多く挿圖されたことも親切な用意として推賞したい。別に左記諸篇が添へられてゐる。

鎌倉彫刻の特長

瀧 精 一

運慶の二作に就いて

丸尾彰三郎

鎌倉期初頭に於ける佛師の消長關係
鎌倉時代の佛師組織に就いて

鎌倉時代の肖像彫刻

鎌倉時代彫刻史概況

宛然鎌倉彫刻論叢の觀を呈してゐるが、實は斯る小論文の集成は別に刊行された方が便利で、本書の如き圖版を主とする大冊の取扱ひ不便な出版物には、收載の作品に直接關係ある記述のみが役に立つのであることを利用者の經驗から申添へたい。概説的な參考知識を與へることが是非希望されるならば、一人の手によつて纏められた方が有效であつたらうと思ふ。(青山)

竪三九・五糶、横三三糶 四切大コロタイプ圖版一〇〇葉 論文及圖版解説六一頁
昭和八年十一月一日、奈良帝室博物館編纂 京都便利堂發行

美術研究所時報

美術懇話會は十二月十六日下谷區上野公園精養軒に於て總會を開いたが、終了後子爵大河内正敏氏の日本陶磁器の鑑賞に就ての講話を聞いた。參考品として同氏所藏に係る陶磁器十數點を展觀し之に即しての興味ある講話であつた。

寄贈新刊圖書

帝國美術院第十四回美術展覽會圖錄

帝國美術院寄贈

帝國美術院第十四回美術展覽會原色畫帖

同

史迹と美術三八

なのか九

雙杉一月

思想一四〇

建築雜誌四七八、四七九

博物館研究七ノ一

書

評

大正大學々報一六

京都美術青年會誌八

中國營造學社彙刊四ノ二

Bulletin of the Museum of Fine Arts, Boston, vol. XXI, No. 188.

Bulletin of the Metropolitan Museum of Art, vol. XVIII, No. 11 & 12.

Bulletin of the Cleveland Museum of Art, 20 th Year, No. 9 & 10.

Bulletin of the Art Institute of Chicago, vol. XXVII, No. 7.

The University Museum Bulletin (Philadelphia), November 1933.

Information Mensuelles de l'Office Internationale des Musées, Octobre et

Novembre, 1933.

Beaux Arts, 47 et 48.

The British Museum Quarterly, Vol. VIII, No. 1.